

前 書 き

甲種本『華夷訳語』に関して、筆者は2003年に次の著書を公刊した：

栗林均『「華夷訳語」(甲種本) モンゴル語全単語・語尾索引』(東北アジア研究センター叢書第10号) 東北大学東北アジア研究センター、2003年。

タイトルに「全単語・語尾索引」とあるように、この書は「華夷訳語」(甲種本)に現れるすべてのモンゴル語の単語と語尾の索引であるが、それには索引のみならず、原文すべての影印とローマ字転写テキストも収録されている。

ここでは、原文影印とローマ字転写テキストと索引を有機的に結び付けて相互に利用することができるように、次のような構成をとった：

(1)原文とモンゴル語のローマ字転写を左右見開きの形に配置して互いに参照できるようにする。

(2)ローマ字転写を原文の頁と行に対応させ、各行頭に「巻数」「丁数、表・裏」「行番号」のタグを付す。

(3)ローマ字転写テキストに基づいて全単語と語尾の索引を作成し、索引では全単語と語尾の出現位置として、ローマ字転写のタグ(「巻数」「丁数、表・裏」「行番号」)を示す。

これによって、同じ冊子の中で索引(の出現位置)からローマ字転写テキストの該当箇所と原文のページ(影印)を容易に参照することができるようにした。

この方式は、2001年に内蒙古大学の确精扎布(チョイジンジャブ)教授とともに編纂した『元朝秘史』の「全単語・語尾索引」で採用したものである。

栗林均・确精扎布『「元朝秘史」モンゴル語全単語・語尾索引』(東北アジア研究センター叢書第4号) 東北大学東北アジア研究センター、2001年。

この書も、タイトルにあるように『元朝秘史』に現れるすべてのモンゴル語の単語と語尾の索引であるが、原文のすべての影印とモンゴル語のローマ字転写テキストを収録し、索引(の出現位置)からそれらを容易に参照することができるようにしたものであった。

上掲2書の「全単語・語尾索引」は、モンゴル語のローマ字転写による索引である。一方で『元朝秘史』も『華夷訳語』も、モンゴル語を漢字で記録した文献であり、漢字を含めた索引を作成することは当初からの目論見であった。しかし、当時は技術的な制限により複雑な漢字を扱う条件が整っていなかったために、これらの「全単語・語尾索引」に漢字の情報を含めることはできなかった。その後、情報技術の進展により繁体字漢字を使用できるようになり、『元朝秘史』では音訳漢字、傍訳漢語を含めた全単語の索引を作成することができた。漢字付き索引は、次の著作として公刊した。

栗林均『「元朝秘史」モンゴル語漢字音訳・傍訳漢語対照語彙』(東北アジア研究センター叢書第33号) 東北大学東北アジア研究センター、2009年。

栗林均『『元朝秘史』 傍訳漢語索引』（東北アジア研究センター叢書第47号）東北大学東北アジア研究センター、2012年。

本書は、2003年の『華夷訳語』の「全単語・語尾索引」に基づき、ローマ字転写テキストを全面的に点検して誤りを正した上で全単語のローマ字転写索引を改訂し、それに音訳漢字と傍訳漢語を付し、さらに今回新たに製作した傍訳漢語の索引を合わせた改訂増補版として位置付けることができる。

本書の巻頭には『華夷訳語』モンゴル語研究序説の一文を置いて、甲種本『華夷訳語』のモンゴル語を表す漢字表記の基本的な問題点を取り上げ、先行研究とこれまでに公刊した拙論の内容を敷衍して、若干の新たな見解を披歴した。『華夷訳語』は『元朝秘史』と密接な関係があり、研究においても深く関わる所が多い。本書の研究には筆者がこれまでに発表した下記の論考を補足訂正して利用したが、それらをすべて本書に取り込むことができたわけではないので、個々のテーマに関しては、元の論文を参照していただきたい。

栗林均『『元朝秘史』と『華夷訳語』における与位格接尾辞の書き分け規則について』
日本言語学会『言語研究』第121号、2002年、1-18頁。

栗林均『『元朝秘史』と『華夷訳語』における漢字使用の問題』The Korean Association
for Mongolian Studies, *MONGOLIAN STUDIES*. No.14, 2003, pp.153-171.

栗林均『『華夷訳語』と『元朝秘史』におけるモンゴル語の動詞過去形語尾 =ba/=be, =bi,
=bai/=bei を表す漢字について』東北大学東北アジア研究センター『東北アジア研
究』第9号、2005年、57-87頁。

栗林均『『華夷訳語』(甲種本)における同音漢字の書き分けについて』大東文化大学『語
学教育フォーラム』第13号、2007年、155-166頁。

大方のご批判、ご叱正を賜れば幸いである。

2019年10月吉日

編者識

目 次

前書き	iii
『華夷訳語』モンゴル語研究序説	1
1. 「華夷訳語」の種類	1
2. 各種「華夷訳語」におけるモンゴル語の特徴	3
3. 甲種本と乙種本韃靼館訳語の関係	7
4. 『華夷訳語』における音訳漢字表記とローマ 字転写の関係	13
5. 音訳漢字の代替使用について	22
6. 小字について	26
7. 『華夷訳語』と『元朝秘史』	36
モンゴル語ローマ字転写解説	48
原文対照ローマ字転写テキスト	51
凡例	52
序・凡例（画像）	54
第1巻：漢蒙対訳語彙	56
第2巻：文例（1）詔勅	112
第3巻：文例（2）書状	140
「涵芬樓秘笈」第四集所収『華夷譯語』跋（画像）	164
モンゴル語全単語索引	165
凡例	166
索引	169
モンゴル語語尾索引	251
凡例	252
名詞曲用語尾索引	253
動詞活用語尾索引	256
漢語傍訳索引	261
凡例	263
索引	265
[付録]	
Ligeti(1972)の『華夷訳語』ローマ字転写正誤一覧	297

本書は日本学術振興会の平成31年度（2019年度）科学研究費助成事業の研究成果公開促進費の交付を受けて刊行されたものである